

「校時表」と「伝え合う場」の工夫を通じた支持的風土の醸成

新潟市立亀田小学校 校長 津野 治彦

1 実践事例

次の2つの場を工夫して、支持的風土の醸成に取り組むことにした。

- A 子どもが進んでかかわることができるような場
- B 子どもが自分の思いを伝え、伝え合いが可能になる場

A 子どもが進んでかかわることができるような場

(1) クラスみんなで楽しむクラスタイムの設定

校時表を見直した。火曜日と木曜日の清掃をなくして、それぞれクラスタイム、亀っ子タイムとした。クラスタイムはクラスみんなで何かをする時間、亀っ子タイムは登校班となかよし班の縦割り班で活動する時間とした。毎週火曜日の13時40分からの20分間、クラス全員で活動することを条件とし、内容は学級裁量とした。当初、教師がしっかりした計画を立てなければならぬと思ひ込み、何をしたらよいのか困惑する担任もいた。特別活動部が活動のヒントを出したり、学年で実践したことを交流する場を設けたりして、担任も楽しんで参加するようになった。そのうち、1年生でも、内容を子どもと相談して決めるクラスが出てきた。

時刻	時間(分)	月	火	水	木	金	
8:10	5						
8:15							
8:30	15	全校集合 朝の挨拶	3～6年混成 1・2年2班分	3～6年混成 1・2年2班分	3～6年混成 1・2年2班分	フットボールコート	
8:40	10		専 用 車 庫 前	専 用 車 庫 前	専 用 車 庫 前		
8:45	5						
8:50	5						
9:00	10	1校校時	1 校 時				
9:15	5						
9:30	10	2校校時	2 校 時				
9:45	5						
9:50	5						
10:15	20		20 分 休 息				
10:35	5						
11:20	5						
11:25	5						
12:10	45		給 食				
12:55	45		昼 休 み				
13:40	45		登校班				
13:55	15	清掃	クラスタイム (清掃なし)	清掃	亀っ子タイム (清掃なし)	清掃	
14:00	5						
14:05	5						
14:10	5						
14:15	5						
14:45	45	5校校時	5 校 時				
14:50	5						
14:55	5						
15:00	5						
15:05	5						
15:45	10	集会	2～6年生 14:45～14:55	集会	4～8年生 14:50～15:05	3～8年生 14:50～15:05	
15:45	10	集会	1～3年生 15:05～15:45	集会	4～8年生 15:05～15:45	集会	
15:45	10	集会	1～3年生 15:05～15:45	集会	4～8年生 15:05～15:45	集会	
16:00							

ぼくは、かくれおにがーばんおもしろかったです。みんながいるから、すごいたのしいです。またみんなとクラスタイムをきめたいです。 (1年)

また、高学年は、グループで順番に運営を任せるクラスもあった。

班のみんなで考えた遊びが実現して、クラスのみんなで遊べるなんて、すごく楽しかったです。自分もノリノリでやっていたつもりです。 (5年)

今までのクラスタイムは、どの班もみんなが楽しむように考えながら作っていたのでいいと思いました。これからのクラスタイムも、みんなともっとなかが深まるようにしたいと思いました。 (5年)

次第に、ジェスチャーゲームなど、もともとあったゲームのほかに、自分たちでゲームを創るクラスも出てきた。ゲームのほかに、月目標に対しての学級の取組を話し合う時間に使うクラスが多かった。このようにして、多くの子どもたちが楽しみにし、自主性を育てる時間となっていた。



(2) 縦割り班で楽しむ亀っ子タイム

毎週木曜日の亀っ子タイムは、登校班の安全確認、運動会練習、全校集会、委員会発表や児童会行事、そしてなかよし班での活動と、多様な内容を行う。そのため、特別活動部が年度初めに年間計画を示した。

月	4月		5月		6月		7月		9月		10月			
	火	木	火	木	火	木	火	木	火	木	火	木		
	【気持ちのよいあいさつしよう】		【時計を見て行動しよう】		【友達と仲良くしよう】		【廊下・階段は右側を歩こう】		【進んであいさつしよう】		【責任をもって自分の仕事に取り組みよう】			
	色付きは、全校児童が集まり、体育館で行う活動です。		2		4	全校集会 13:40～	6	水泳期 健康相副 13:30～	2	ミニゲーム	4	委員会		
9	クラスタイム (OCT)の目的を 共有しよう	亀っ子 なかよし班 発表会	7	全校集会 13:40～	9	登校班 集会	11	ミニゲーム	13	委員会	9	ミニゲーム		
16	ミニゲーム	メンバーの 名前を 覚えよう!	14	クラス カンファレンス タイム(OCT)	16	耳鼻科 検診 13:00～	18	クラス カンファレンス タイム(OCT)	20	なかよし班遊び (18年生運営)	16	クラス カンファレンス タイム(OCT)	18	なかよし班遊び
23	ミニゲーム	1年生 おめでとう 集会	21	運動会 総団式	23	運動会 亀田誓切	25		27	なかよし班遊び (18年生運営)	23		25	
	担任の個性を生かし、目的に応じたゲームを実施しましょう。		28		30	運動会 応援練習	クラスのよさや課題などを表出・分析し、課題解決に向けた取組を話し合う時間。						29	ミニゲーム
行事等	全国学テ(18日) 2年アグリパーク(10日) 学習参観・PTA総会(19日) 入学おめでとう集会 ※委員会①(10日)②(24日)		運動会予行練習(29日) ※委員会③(22日)		運動会(1日) 小中合同研修日(13日) 6年単学旅行(20・21日) 個人懇談(24～1日) 6年亀中体験入学(27日) ※委員会④(19日)		防災授業・地区子ども会 5年自然体験(17・18日) ※委員会⑤(10日)		全校朝会(2日) マラソン大会(19日)? ※委員会⑥(18日)		なかよし班発表会(24日) 亀小フェスティバル(27日) ※委員会⑦(23日)			

縦割りのなかよし班で行う活動は、大きく2種類ある。一つは教師主導で行う集団作りゲーム、もう一つは6年生が計画するなかよし班遊びである。なかよし班遊びは、年間10回ほどである。6年生が、同じ班の下級生が楽しむことができるように毎回内容を考えた。

1, 2回目と比べ、仲が深まっていてとてもうれしかったです。前回のように笑顔がありました。と中で、まちがえた2年生が泣いたけど、最後までやり通せました。最後にみんなが「楽しかった」と言ってくれてよかったです。(6年)

今回は、何でもバスケットをしました。みんながいろいろなお題を出し合っていたので、おたがいのことをたくさん知ることができました。みんなが笑顔で楽しんでくれたのでよかったです。(6年)

縦割り清掃もなかよし班で行っている。6年生にとっては、リーダーシップを学ぶ場でもある。そして、なかよし班遊びの中で楽しさを感じるとともに、地域で少なくなった異学年集団の中でのかかわり方を学ぶ場となっている。



(3) 総合の学習とコロナ禍での対応

昨年度までに、地域住民とのかかわりの場を増やす目的で総合の学習を次のように改善した。

- ・4年生はそれまで、亀田の伝統芸能である「亀田木遣り唄」を亀田祭りや市のにじいろ音楽祭で披露してきた。それを地域の老人福祉施設3か所を訪問して披露し、交流するようになった。さらに、令和元年

度から亀田祭りの子ども岩万燈にも参加した。

- ・5年生は、地元の商店とタイアップして、米ピューレを使った商品開発に挑戦した。5年生全員が参加したレシコンテストを行い、商品化が実現した。
- ・学習発表会の日に続けられてきたPTA主催のバザーを止めて、親子が直接商店街に出向いて買い物をする形にした。6年生が総合の学習として、店ごとにグループを作り、店の魅力について調べた。そして、店に足を運ぶ人を増やすための方策を考え、店の人に提案した。当日は、6年生が作った案内チラシや割引クーポンを手にした大勢の子どもや大人が、地元の商店街に足を運んだ。子どもたちが、地元の商店の人とかかわる機会となった。

そして今年度は、さらにかかわりを充実させる予定であったが、新型コロナウイルスの影響で地域とのかかわりが難しくなった。そんな中でも、4年生は岩万燈保存会の方々と連携して、昨年度同様の木遣り練習、岩万燈の飾り作りに取り組んだ。亀田祭りやにじいろ音楽祭が中止となる中でも、木遣りリーダー、お囃子、飾り制作の子どもたちは、昼休みもずうっと活動を続けた。そして、体育館で行った全体練習では、全員が真剣な姿で取り組んでいた。学年が一体となった姿であった。

子どもたちががんばることができた背景には、岩万燈保存会の方々の熱い思いがあった。子どもたちの練習・制作に昼休みもずうっと指導していただき、学校に来ていただいたのべ回数は、百回を軽く超えた。岩万燈保存会の方々とのかかわりを通して、子どもたちは保存会の方々の祭りにかける思い、子どもたちにかける熱い思いを感じていた。

発表の場所がなくなった子どもたちのために、10月20日ビッグスワンで行った「亀小ランラン day」のオープニングで亀田木遣りを発表させることにした。広いビッグスワンに子どもたちの声が響き、大勢の保護者から拍手をもらった。また、1月29日には、4年生保護者と岩万燈保存会の方々を招き、3年生への引継ぎの会・岩万燈保存会の方々への感謝の会を行った。この会の模様は、希望する保護者にZoomで配信した。



【ビッグスワンでの亀田木遣り発表】

4年生は、新潟市生活・学習意識調査の「学校生活で、友達と力を合わせて学習したり活動したりしています」「友達のよいところを見付けたり、落ち込んでいるのを励ましたりしています」「やっていることを先生や友達に認められてうれしいと感じることがよくあります」の項目において、肯定的な回答が前年度より大きく増加した。

ほかの学年でも、2年生三・九の市、3年生亀田縞と、可能な範囲で人とかかわりを大切にした学習に取り組んだ。

B 子どもが自分の思いを伝え、伝え合いが可能になる場

(1) 全校体制で取り組んだ伝え合う場

① 清掃反省会での「おそうじチャンピオン」

清掃終了後には、毎回反省会を行っている。服装、清掃態度等の確認をした後、班長・副班長がその日掃除をがんばった子どもを「おそうじチャンピオン」として紹介する。そして、推薦された子どもが感想を述べるようにした。その場で考えたことを話す練習にもなっている。

② 「スマイルカード」と「あいさつ賞」

生活指導部が計画し、友達のよい面をカードに書いて手渡す「スマイルカード」の取組を年4回行った。学級内が基本であるが、次第に学級学年を超えた手渡しが行われるようになった。

いつも黒板をきれいにしてくれてありがとう。黒板がとてもきれいです。これからもよろしくね。

班全員で話し合う時に盛り上げてくれてありがとう。おかげで、言いづらい時や、自信のない時にでもよく言えた。

もう一つは、「あいさつ賞」である。あいさつがよいと思う友達の名前を書いて渡すミニ賞状である。スマイルカードと同じように手渡しが行われ、会話のきっかけになった。

(2) 各学級で工夫した取組

学級の中で、よさやがんばりを認め合う場を工夫することを、全校で取り組むことにした。学年会や便りで、学級の取組を紹介する場を設けるようにした。他学級の取組を参考にしながら、どの学級でも様々な取組が行われるようになった。

【学級で行われた取組の一部】

- | | | | |
|--------------|-----------|-----------------|-------------|
| ・ほめ言葉のシャワー | ・ほめ日記 | ・ありがとう付箋 | ・すてきだね付箋 |
| ・よいところカード | ・ありがとうカード | ・ギフトカード | ・みんなへのメッセージ |
| ・いいところ見つけノート | ・今日のキラキラ | ・誕生日会でのメッセージカード | |
| ・花丸ノート | ・ミニ賞状 | ・イベントの開催 | |

(3) 対話に焦点を当てた校内研修

令和元年度より、研究主題を「探究的に学ぶ子どもの育成 ～『深い学び』に向かう対話を重点として～」とし、校内研修に取り組んでいる。

授業の中で、深い学びに向かう対話場面を設定し、一人が2回授業研究を行った。また、学年部単位で、日頃の授業を基にして対話の場面を紹介し合った。授業の中で、伝え合う場面が多く見られるようになった。

11月16日には、総合教育センターの諸橋智指導主事を招いて算数の授業研究を行った。

また、11月30日と1月22日には、福島大学の佐藤佐敏教授を講師に迎えて、国語の授業研究を行った。

特に、佐藤教授からは、国語の授業づくりに加えて、当校の取組について次のような指導をいただいた。

- ・国語の授業における対話について整理して教えていただいた。他者との対話だけではなく、テキストとの対話、自分との対話を大切にしていく必要がある。対話の目的について学び、「所詮自分の読みは大したことがない。だからこそ他人の読みを知りたい」と思わせるようにしなければならない。

また、公開授業の子どもの姿から、支持的風土を醸成する取組についてほめていただき、これまでの取組に自信をもつことができた。

職員アンケート「授業改善研修・授業研究が、子ども同士の対話を重点とした授業改善につながっているか」では、「あてはまる 52.4%」「ややあてはまる 42.9%」と高い評価であった。



【グループでの対話】



【佐藤教授を講師に招いた授業研究】

(4) コロナ禍の中での工夫

コロナ禍の中でも、クラスタイムは4月から始めていた。また、なかよし班の活動も6月から縦割り清掃、そして亀っ子タイムを始めることにした。

そのほか、次のような取組を行った。

(1) 全校に伝える「かめっせーじ」

みんなに伝えたいことをカードに書いて、玄関前廊下の大掲示板に続けて貼っていった。自由参加で行い、職員も進んで書いていた。子どもたちは、カードが増える度に喜んで読んでいた。

(2) 全校に向けた動画「亀っ子 Tube」

希望した児童が、メッセージやクイズなど内容を考えて担任に撮影してもらい、5分程度の動画にした。それを20分休みなどにテレビ放送して全校に伝えた。

(3) 分散登校中の「メッセージボード」

分散登校中は、午前と午後に分かれて学習した。会えなくなったグループの友達に向けたメッセージをホワイトボードに書いた。各学級にホワイトボードを5枚ずつ配付し、全校で取り組んだ。子どもたちは登校すると黒板に置かれたホワイトボードの所に行き、うれしそうに読んでいた。

午前中のそうじなどありがとうございます。おかげで気持ちよく勉強ができました。みなさんと会えるのを楽しみにしています。

学年漢字テストがんばれ！コロナが終わったら、みんなで遊ぼうね。早くみんなで給食食べたいね。早くみんなの顔が見たいよ。

(4) オンラインでの亀っ子タイム

教師主導で行う集団作りゲームを体育館で一斉に行うのは難しくなった。そこで、特別活動担当がテレビ放送を使って指示し、子どもたちはそれぞれの教室にいてゲームができるようにした。また、説明の場面では、Zoomを活用して双方向のやり取りが行われた。

(5) オンラインでのパフォーマンス大会

パフォーマンス大会は、クラス単位で歌や踊り、特技などを5分間で披露するイベントである。クラスみんなで内容を考え、クラスみんなで形にしていく、集団作りをする上で大切なイベントである。昨年度まで体育館を会場にして、全校の前で披露していた。今年度は、各クラスで録画し、給食の時間に放映した。

6月のクラスタイム・亀っ子タイムについて			
		令和2年6月1日(月) パイロット事業推進	
6月の活動予定			
クラスタイム		亀っ子タイム	
1	遊びやゲームなど	4	全校集会(放送)
8	なかよし班顔合わせ	11	なかよし班遊び(放送で進行)
15		18	→クラスタイム
22		25	なかよし班遊び(6年生運営)
29			

・1日のクラスタイムは、通常登校になって最初のクラスタイムです。
子どもたちが「クラスタイムって楽しい!」「みんなでクラスタイムをしようと思ったな。」と嬉しそうに活動にしましょう。ポイントは何でも失敗しても笑える「ちょっとしたドキドキ感」です。

【活動例】

- 「じゃんけんフルコース」
 - ①たたくさん勝とう!(ペアで20秒間)
 - ②たたくさん負けよう!(ペアで20秒間)
 - ③たたくさんあいこ!(ペアで20秒間)
 - ④たたくさん勝とう!(担任と30秒間)
 - ⑤たたくさん負けよう!(担任と30秒間)
- 「スモールナンバーゲーム」
- 「農産物ゲーム」
指名された人は、スクール形式の座席に座った状態の人の中から「農産物」を出てる。
- 「多数学!」
2択の質問に対して、人数が多い答えを選べば勝ち残り。(選えたと告げなければならぬ)
「食べるなら、パナアイス?それともチョコレートアイス?」
「友達になりたいのは、アンパンマン?それともドラえもん?」
「あなたは、猫派?犬派?」などなど

子どもたちの笑い声があふれる時間になるといいですね。ただし、3密回避の徹底など、ガイドラインは遵守しましょう。もし子どもたちが盛り上がり「密接」状態になったときも、クラスタイム中は、笑顔で楽しく「密接」な状態になっていることを教えてあげましょう。

【クラスタイム・亀っ子タイムの計画(6月)】



【オンラインでのパフォーマンス大会】

2 実践の成果と課題

(1) 成果

① 児童アンケート ※数値は肯定的評価の割合

	H30	R1	R2
学校生活は楽しいか	91.9	93.6	92.9
クラスの友達は、自分のよさを分かってくれているか	84.6	86.8	88.0
学校生活で友達と力を合わせて学習したり活動したりしているか	97.4	93.6	95.5

② 保護者アンケート

	H30	R1	R2
お子さんは、学校での学習を楽しんでいるか	89.3	93.2	91.7
お子さんは、友達のよいところを見つけて、仲良く学校生活を送っているか	95.7	96.3	95.9

子どもたちが、自分の居場所をもち、認め合うような集団だと感じてきている。これは、支持的風土を醸成するためにかかわりの場と伝え合う場を充実した結果である。

保護者アンケートに、次の記述があった。

なかよし班での活動が、今まで以上に楽しめているようです。学年が上がるにつれ、他学年の友達とかかわろうという姿勢が高まっているのではないかと考えます。
(保護者)

また、今年度転入してきた職員が、「学校全体で、よいところを伝え合う場が多くてすてきです」と話してくれた。コロナ禍の中でも、工夫した活動が行われていることを表している。

(2) 課題

児童アンケートで、他と比べて肯定的評価が低いのが、「自分にはよいところがある(84.6)」「学習や生活のめあてをもって過ごしている(75.0)」である。これには、子どもの自主性を育てる取組がまだ不足していることも関係している。子どもに任せる、子どもと教師とが創り上げるような場をさらに工夫していく必要がある。